委員長
堀口

自治体連携・観光推進対策特別委員会視察報告

令和７年12月１日

泉大津市議会議長　様

出張者氏名	委員長	堀口　陽一
	副委員長	谷野　　司
	委　員	西條　　徹
	委　員	野田　悦子
	委　員	丸谷正八郎
	委　員	丸山　直土
	委　員	森下　　巖
行政参加者	檜　　光優	市長公室参事兼地域経済課長
	宮嵜　嘉一	市長公室成長戦略課長
随行	谷口　宏行	議会事務局次長

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

１　日　　時　　令和７年10月30日（木）～31日（金）
２　出 張 先　　神奈川県鎌倉市
３　目　　的　　鎌倉市の観光施策について
　　・鎌倉商工会議所（小町商店会会長と面談）
　　・鎌倉市役所（市民防災部観光課）

４　報告事項　　別紙のとおり

自治体連携・観光推進対策特別委員会視察報告書

令和７年 11 月 17 日

泉大津市議会議長　様

委員長　堀口　陽一

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

1　日　　時　　令和７年 10 月 30 日（木）～10 月 31 日（金）

2　出 張 先　　神奈川県鎌倉市

3　視察内容　　鎌倉市の観光施策について

【１日目】

・鎌倉商工会議所（小町商店会会長と面談）

・小町通り他

【２日目】

・鎌倉市役所（鎌倉市市民防災部観光課）

報告事項

１日目　概　要

鎌倉市小町商店会について、商店会会長の今雅史氏から商店会の歴史と現在の状況、今後の展望について説明を伺いました。

説明後に現地（鎌倉小町商店会）を実際に視察しました。

また、観光の中心となっている鶴岡八幡宮に、全員で足を運び視察した後に、各自で分散して各所視察を行いました。

所　見

鎌倉市小町商店会は、明治22年鎌倉駅が開業されましたが、商店会は、その58年を経過した戦後の昭和22年に設立されました。

詳細については、商店会長の今雅史氏から、説明を受けました。

小町商店会の特徴と努力をした点は、立地としては鶴岡八幡宮の近くに位置しますが、参道ではないので鶴岡八幡宮参拝者を誘客するために、大鳥居を昭和24年に設置した点です。

しかも参道ではないため、鳥居への名称を八幡宮近道とした点です。このように先人達の努力によって、鶴岡八幡宮の参道の一つとして観光客が増加しています。

コロナ禍後の現在では、オーバーツーリズムの問題を抱えておりますが、ゴミを持ち帰り用のセンスの良い紙袋を配布する等の様々な努力をしている点が良く伺えました。

２日目　概　要

鎌倉市の観光施策について、鎌倉市役所にて鎌倉市市民防災部観光課長中澤準氏から現状と課題、対策について説明を受けました。

所　見

鎌倉市は、元々観光資源が豊富で鶴岡八幡宮、鎌倉大仏で有名な高徳院、海岸部では由比ヶ浜と他にも多数の観光スポットが点在します。

特に近年問題となっているのが、世界的に人気のアニメ「スラムダンク」のオープニングに登場した事で聖地として知られるようになった鎌倉高校前です。

アニメの中で主人公・桜木花道がここで江ノ電を待つシーンは、青春の象徴的描写としてファンに深く刻まれています。

しかし、観光地としての対応が一切成されていなかった事と、小さな踏切であった事、オーバーツーリズムによりアジアからの観光客が急増した事等で、対応が後手に回りました。

視察の私達にも、この場所へは行かないで欲しいと要望があったような状況です。

現在は観光客の動線を配慮した上で警備員を配置する事で一定の対策を取りましたが、根本的な問題はそれだけではなく、オーバーツーリズムによる観光客増による影響で、地元住民の日常生活を脅かす状況に迄至りました。その結果流出人口にも影響が出ています。

更に対策費用増となるが、日帰り観光客が多いために税収が増えないという状況です。

現在の対策としては、豊富な観光資源がありながら有効活用できていなかった中で、かつての別荘跡地が現在観光スポットや公共施設としての場所がいくつかあるため、そうした建物の活用と、点在している観光資源（瑞泉寺・長谷寺・銭洗弁財天等）に光を当てるべく、周知を含めた対策を練っているとの事でした。

本市に於いても、新たな観光資源が見いだせる可能性はありますが、対策を考慮しながら観光施策を施行する事が重要だと強く感じました。

自治体連携・観光推進対策特別委員会視察報告書

令和７年１１月４日

泉大津市議会議長　様

委員氏名　谷野　司

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

１　日　　時　　令和７年 10 月 30 日（木）～10 月 31 日（金）

２　出 張 先　　神奈川県鎌倉市

３　視察内容　　神奈川県鎌倉市【１日目】
鎌倉市視察（午後１時３０分～）
・鎌倉商工会議所（小町商店会会長と面談）
・小町通り他

神奈川県鎌倉市【2 日目】
・鎌倉市の観光施策について

４　所　　見

鎌倉市視察

○鎌倉商工会議所にて

鎌倉商工会議所　奈須 菊夫　事務局長

鎌倉小町商店会　今　　雅史　会長

視察の目的

観光地における商店街の活性化とオーバーツーリズム対策、地域文化を活かした観光まちづくりの取組に関する先進事例を調査し、本市の観光施策に資する知見を得る。

説明概要

鎌倉小町商店街は、鎌倉駅東口から鶴岡八幡宮へと続く約 300mの通りに位置し、約 300 店舗が立ち並ぶ商店街である。

1889 年の鎌倉駅開業を契機に形成が進んだ。1947 年に小町商店会が発足し、現在では鎌倉観光を代表するエリアとなっている。

商店街入り口には象徴的な赤い鳥居が設置されており、街のシンボルとなっている。また、2013 年には電線の地中化が行われ、景観面で大きく改善された。

アーケードを設けず、空と自然が見える「開放的な通り景観」が、鎌倉らしい落ち着きと調和を感じさせる。

商店会の主な取組概要

（１）食べ歩き文化とオーバーツーリズムへの対応

2010 年代以降「食べ歩きグルメ」が人気を集め、観光客の増加とともに「ゴミ問題」「歩行者トラブル」などの課題が発生。

当初は食べ歩きを禁止する案も検討されたが、「街の賑わいを維持する」方針を採用。

2019 年には観光客にゴミの持ち帰りを促す「おもてなし袋」を制作し、3,000 部を配布。「思い出とゴミを一緒に持ち帰る」というメッセージが好評を得た。（事業がコロナ禍で中断中。多言語表記（特に中国語）への対応方法が未解決となっている）

（２）災害対策への対応

観光客が避難方向を誤らないよう、「海の方角の認識」や「津波という概念の共有」といった基礎的な部分から対策を実施している。

商店会では学生団体や行政と連携し、津波避難対策の検討を進めている。特に、中国語圏では「Tsunami」という言葉が通じにくい場合もあるため、言語の壁を越える工夫が求められている。

その一環として、外国人観光客向けに多言語ピクトグラムを活用し、避難方向をわかりやすく可視化する取組を行っている。

（３）今後の方向性

商店会では「賑わいの中に品格を」をキャッチフレーズとする「鎌倉小町商店会憲章」を策定。歴史・文化・景観を尊重しながら、地元住民・商業者・観光客が共生するまちづくりを目指している。

大学との連携によるデザイン提案やまち歩き研究など、若い世代との協働も進めている。

所感

観光商店街が抱える「賑わい」と「生活環境保全」の両立という全国共通の課題に対し、地域・行政・学生が一体となって創意工夫を重ねている姿が印象的であった。

特に「おもてなし袋」に象徴されるような、問題を地域の文化として前向きに活かす発想は、地域資源を活かした観光まちづくりの好例といえる。

災害時に観光客をどう守るかという視点も、観光地を抱える自治体として非常に示唆に富む内容であった。

本市においても、地場産業や文化を活かした観光振興を進める上で、鎌倉小町通りのような協働型まちづくりを参考としたい。

神奈川県鎌倉市

〇鎌倉市の観光施策について

市民防災部観光課　中沢課長　松村氏

視察の目的

観光地における活性化とオーバーツーリズム対策、地域文化を活かした観光まちづくりの取組に関する先進事例を調査し、本市の観光施策に資する知見を得る。

鎌倉市の概要

鎌倉市は神奈川県三浦半島の付け根に位置し、人口約 17 万人、面積約 40 平方キロメートル。

JR 横須賀線、江ノ島電鉄、湘南モノレールが走る観光都市であり、鶴岡八幡宮や鎌倉大仏、長谷寺などの歴史・文化資源を有する。

鎌倉市は京都・奈良と並ぶ「古都」として知られるが、都市面積が比較的狭く、1 平方キロメートルあたりの観光客数が全国的にも突出して高い点が特徴である。

観光客と住民生活圏が近接しており、「観光地でありながら生活都市でもある」という構造が課題と魅力の両面を持つ。

観光動向の現状と課題

（1）観光客数の推移

・コロナ禍を経て観光客数は回復傾向にあるが、令和 5 年度時点では約 1,600 万人と、未だコロナ前水準には届いていない。

・鎌倉市の市税収入は観光客数の増減に左右されにくく、観光産業が市の財政を直接支える構造にはなっていない。これは、都内など市外で所得を得る住民が多く、市財政の主な基盤が観光以外にある。

また、観光客が利用する店舗の多くが東京や横浜の資本であり、儲けが市外に流出し、市税収入に繋がりにくい構造にもある。

（２）観光客の特徴

・日帰り客が約 96.8%、宿泊客は 3.2%（約 50 万人）にとどまる。

・東京都心からのアクセスが良く、首都圏日帰り観光地の性格が強い。観光のピーク時間は 11 時～16 時。

・主な来訪目的は「神社仏閣巡り」「ハイキング」「食事・買い物」「美術館・文化鑑賞」などあらゆる世代が多様な目的で訪れている。

・1 回以上鎌倉を訪れている観光客の割合が最も高く、リピーターが多いのが特徴（遠足での訪問も一因）。

・外国人観光客はアジア（中国・台湾・韓国）に加え、ヨーロッパ（特にイタリア・スペイン）からの禅文化を目的とした訪問者が多くなっている。

観光に伴う課題と対応

（１）観光集中エリア

観光客は特に「鶴岡八幡宮」「小町通り」「長谷寺」「江ノ電沿線（鎌倉高校前駅周辺）」などに集中。

週末には駅や道路で混雑・渋滞が発生している。

江ノ電鎌倉駅では入場制限を行うこともあり、住民の生活動線への影響が課題となっている。

（２）混雑対策と地域共存

・混雑時（GW など）の江ノ電鎌倉駅での住民優先入場パスを発行し、住民生活のストレス軽減に努めている。

・混雑状況の可視化として観光混雑マップを公開し、観光客が集中エリアや時間を避けるための分散行動を促している。

・駅前ボランティアガイド:土日祝に多言語対応のガイドを配置し、観光客の誘導と駅前での滞留時間短縮を図っている。

江ノ電「鎌倉高校前」周辺の対応事例

アニメ『スラムダンク』の舞台として世界的に知られる「鎌倉高校前踏切」は、国内外の観光客が急増した聖地スポットとなっている。

しかし、周辺住民からの苦情・生活被害が多発しており、市では「公な観光地」としてのPRは一切行っていない。

【問題点】

・観光客による道路横断・撮影混雑

・私有地への無断立入、排泄行為等のマナー違反

・白タク行為や外国人運転手によるトラブル事例も発生

【対応】

○警備と誘導策

・職員と増員した警備員による歩道確保、通行スムーズ化を実施。

・近隣の公園（腰越ラッコ公園）の植栽を伐採し、フラットな撮影エリアを設置し、踏切周辺からの分散を図る動線を確保。

（2025年9月13日から16日にかけて、実証実験が行われた。）

・国（観光庁）の補助金を活用し、迅速な警備員配置を実現。

○啓発・周知活動

・警察との連携で、アクティブ交番を設置して白タク等の取り締まりを強化。

・迷惑行為を定めたマナー条例（平成31年制定）に基づき、多言語での案内看板を設置。

○資金調達

・オーバーツーリズムの問題に対応すべく、地域住民と観光客が共

生するモデルケースの実現に向けて、ガバメントクラウドファンディングを実施し、警備費用などの市の負担軽減と、迷惑行為対策への支援の呼びかけを展開。

今後の方向性

・宿泊税の検討に加え、観光客の多さに応じた新たな収益源（例：撮影スポット利用料など）の創出を模索し、得られた収益をインフラ整備や住民サービスの向上に還元する仕組の検討。
・「歴史と文化が描くモザイク画の街へ」として日本遺産に認定されており、このストーリーと構成文化財（56件）を巡ることで、特定のエリアから観光の分散化を図っていく。
・座禅や抹茶体験に加え、紅葉の時期にサウンドアートナイトのような没入型のイベントを企画し、新たな体験型観光として観光客の誘致を行なっていく。

所感

今回の視察を通じ、「観光振興」と「生活環境保全」の両立という全国共通の課題に対し、鎌倉市が丁寧に取り組んでいる様子が印象的であった。
特に「観光を禁止ではなく文化として共存させる」姿勢は、今後観光振興を進めるうえで大いに参考になるものであった。
本市においても、地域の特性を生かしながら、住民・行政・観光事業者が協働する持続可能な観光施策を構築することが必要であると感じた。

自治体連携・観光推進対策特別委員会視察報告書

令和７年１１月１０日

泉大津市議会議長　様

委員氏名　西條　徹

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

１　日　　時　　令和７年 10 月 30 日（木）～10 月 31 日（金）

２　出 張 先　　神奈川県鎌倉市

３　視察内容　　神奈川県鎌倉市【１日目】
鎌倉市視察（午後１時３０分～）
・鎌倉商工会議所（小町商店会会長と面談）
・小町通り他

神奈川県鎌倉市【2 日目】
・鎌倉市の観光施策について

鎌倉商工会議所（小町商店会会長と面談）

鎌倉市の小町通り商店会は、鎌倉駅開業（1889年）と駅前ロータリー整備を機に発展を始めた商店街であり、元々主要な参道ではなかった「八幡宮近道」として独自のスタートを切った歴史があります。当初は別荘所有者などへのサービス提供が中心でしたが、現在ではその賑わいが最大の特徴となっています。

商店会は、1947年に設立され、その入口にある朱色の大鳥居をシンボルとしています。この鳥居は、元々の正式な鶴岡八幡宮参道とは異なる、小町通り独自のシンボルとして機能しています。また、2013年には電線の地中化を完了しており、これにより通りの景観が大きく改善され、鳥居越しに八幡宮の裏山まで見通せる開放的な空間が、観光地としての大きな魅力となっています。アーケードがない吹き抜けの景観が、自然と調和した形で評価されている点も特徴的です。

観光客の増加に伴い、食べ歩きによるゴミやトラブルの問題が発生しましたが、小町通り商店会は、食べ歩きを禁止するのではなく、アンケートの結果（当初は反対が多数だったが、現在は容認派が増加）に基づき、これを街の魅力として容認する方針を採り、大きな転換期を迎えました。その上で、ゴミ問題への対策として、「おもてなしの袋」という名称のおしゃれな紙パックを2019年から配布するキャンペーンを実施しました。これは単なるゴミ袋ではなく、「思い出と一緒に持ち帰ってください」というキャッチフレーズとピクトグラムを記載し、持ち帰りを促すための啓発キャンペーンとして展開されました。袋自体が「歩くポスター」として宣伝効果も生むという発想も独特です。

新型コロナウイルス感染症の影響下で、テイクアウトや食べ歩き対応の店舗が急増し、現在は当初の2店舗から約63店舗にまで増え、特にコロナ禍以降の新規出店や世代交代が非常に激しいという状況にあります。この急速な変化に対し、商店会は従来ののんびりした運営ではなく、時代の変化に対応する必要に迫られています。

また、観光客に対する防災対策への取り組みは、他の商店街には少ない顕著な特徴です。観光客への津波避難対応について、高校生や大学生の

団体、行政と連携し、多言語対応や観光客の心理を考慮した避難誘導策を検討しています。特に、津波警報時に観光客が広い場所を求めて駅前のロータリー（海側）へ向かってしまうリスクを把握し、これを回避するための誘導方法を模索している点は重要です。さらに、パートタイマーの従業員が増えた現状を踏まえ、彼らを「率先避難者」として位置づけ、訓練を通じて避難行動を促す構想もユニークです。

小町通りの利用者は、リピーターが圧倒的に多いのが最大の強みで、四季折々の魅力があることに加え、世代を超えたリピーター（修学旅行生が後に家族を連れてくるなど）が多いことがデータから確認されています。また、近年では観光客が八幡宮へは行かず、小町通りを楽しむことを主な目的として滞在するケースが増えており、観光のあり方が変化していることが伺えます。

商店会は街の景観や雰囲気を守るため、最近になって「鎌倉商店会憲章」を制定し、「この賑わいの中に鎌倉らしさを。」をキャッチフレーズとして、文化や景観を大切にする街づくりを進めることを表明しています。これは、商業的な発展だけでなく、地域住民の理解や歴史的背景を重視する姿勢を示すものです。さらに、観光客と地元住民がお互いの文化を理解し、尊重し合うことを目的とした「ツーリストシップ」という考え方に基づく実証実験にも取り組む予定であり、持続可能な観光地経営に向けた先進的な取り組みを行っています。

鎌倉市の観光施策について

鎌倉市は、約 40 平方キロメートルというコンパクトな市域に豊かな歴史と文化資源が凝縮されているため、他の観光都市と比較して、1 平方キロメートルあたりの観光客の入り込み数が突出して高いという特徴があります。この高密度な観光客の流入は、特に鶴岡八幡宮周辺や小町通り、江ノ電沿線といった地域に集中し、週末には道路の交通渋滞が常態化する要因となっています。

観光客の滞在パターンを見ると、9割以上が日帰り客であり、「午前11時到着、午後4時出発」という限られた時間帯に集中して移動するため、特定のエリアの混雑が激しくなります。これは、首都圏から日帰りで訪れやすい観光地としての性格が強いことを示しています。また、観光客数が変動しても市税収入に大きな変化がないという経済構造を持ちます。これは、市民の所得の多くが都内などで得られており、また、市内の観光産業事業者が市外資本である場合が多いため、市に十分な法人税収として還流していないことに起因すると分析されています。市は、この課題に対し、宿泊税の導入を計画し、観光客からの税収を確保することで、市民の皆様に観光による豊かさを実感していただくための仕組みづくりを目指しておられます。

鎌倉市は、観光客と市民の間の摩擦を解消し、住民の皆様がストレスなく生活できる環境を維持することを最優先課題とされています。その具体的な取り組みは、市民生活の維持と観光の質の向上という両面から展開されています。

まず、市民の生活交通の利便性確保のため、江ノ電の混雑時には沿線住民を対象とした優先入場パスを発行し、市民の皆様の日常的な移動に配慮されています。また、正月三が日などの大混雑期には、一部の通行止めエリアにおいて、地元の方々には通行手形を発行し、生活道路の利用を可能としています。

次に、観光客のマナー向上を促すため、市は「鎌倉市公共の場所におけるマナーの向上に関する条例」を制定し、混雑時の歩き食べ、私有地への無断立ち入り、ハイキングコースでの危険行為といった迷惑行為について、多言語での啓発を徹底されています。さらに、観光客が集中するエリアの混雑状況を可視化・予測できる鎌倉観光混雑マップを運用することで、観光客の皆様が混雑を避けて行動できるよう促し、観光客の分散に繋げています。

特に、外国人観光客が集中する鎌倉高校前駅周辺では、私有地への排泄行為、迷惑駐車、そして白タクシーによる危険行為が深刻化し、地元の中学生が威嚇されるという事態まで発生しました。市は、この危機的な状況に対し、トップダウンで非常に迅速な対策を講じられました。
まず、問題発生後すぐに職員と警備員を現場に増員配置し、歩行者の安全確保と交通の秩序維持に努められました。これと並行して、危険な踏切周辺から観光客を安全な場所へ誘導するため、近隣の公園の生垣を伐採・整備し、安全な代替撮影スポットを設けました。この誘導策により、滞留時間の減少と秩序の回復に一定の効果が見られました。
また、違法行為の取り締まりについては、警察に協力を要請し、アクティブ交番を定期的に設置して白タクシーなどの交通違反への厳重な対応を強化されました。さらに、これらの恒常的な対策費用の一部を賄うため、ガバメントクラウドファンディングを立ち上げられました。これは、公的な財源だけでなく、観光客を含む広く社会からの支援を得ることで、オーバーツーリズム対策の持続可能性と先進性を追求する、挑戦的な試みであります。この一連の対応では、国からの補助金についても、通常では考えられないほどのスピード感をもって手続きを進めていただいたことも、成果を上げる要因となりました。

市は、既存の観光資源への集中を避け、観光の質的向上と地域的な分散を促すため、多様な魅力を発掘されています。
まず、市の歴史と文化の重層性を「モザイク画」として表現した日本遺産のストーリーを積極的に活用されています。源頼朝の時代から、北条氏の時代、江戸時代の水戸光圀による参拝推奨、そして明治以降の別荘文化や鎌倉文士による文化活動に至るまで、多時代にわたる文化が重なり合っていることを紹介し、構成文化財を巡ることで、主要な観光地に

集中しがちな観光客を市内の広域へと誘導する戦略をとっておられます。
また、観光客の関心を深めるため、単なる「見る観光」から「体験する観光」へと注力されています。座禅や抹茶といった伝統的な文化体験に加え、寺院をライトアップした没入型イベントや、日本遺産のストーリーを深く理解できるガイドツアーといった新しいコンテンツを創出・支援し、観光の満足度と消費額の向上を図っておられます。

鎌倉市が観光客の利便性と経済効果だけを追うのではなく、地域住民の生活の「質」を守り、観光客との調和をいかに実現するかという点に、揺るぎない重点を置いていることを学びました。特に、問題発生時の迅速な意思決定と実行力、そして多角的な連携による問題解決能力は、当市にとって大いに参考とすべき強みであります。鎌倉市は、今後も観光客による住民の豊かさの実感を高める仕組みづくりや、日本遺産をフックとした分散化戦略を継続し、誰もが住んでよかった、訪れてよかったと思える成熟した観光都市を目指しておられます。

自治体連携・観光推進対策特別委員会視察報告書

令和７年１１月２８日

泉大津市議会議長　様

委員氏名　野田 悦子

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

１　日　　時　　令和７年１０月３０日（木）～３１日（金）

２　出 張 先　　神奈川県鎌倉市

３　内　　容　　１．鎌倉商工会議所（小町商店会会長と面談）
　　・小町通り 他
　　２．鎌倉市の観光施策について

４　報告・所見　　次頁参照

報　　告

自治体連携・観光推進対策特別委員会として、初めての視察となった今回の視察先は、関東でも観光客が多くオーバーツーリズム気味ではないかと懸念していた鎌倉市への視察の中で、本市が取り入れられる施策や取り組みはあるのだろうかとの思いも持ちつつ、視察に臨みました。

１．鎌倉商工会議所（小町商店会会長と面談）

小町通り：長さ約３００ｍ　店舗総数約３００店舗（内会員店舗 195）

一日目の商工会議所内で行われた小町商店会会長のお話は小町商店会の歴史から始まった。

・元々商店街があり活気があったわけではなく、鶴岡八幡宮の参道の脇道・農道のような道に鎌倉市民と別荘族と呼ばれる人たちを相手の商いで数件の店があった。

・1889 年鎌倉駅開業

・1947 年小町商店会設立

・1949 年シンボルタワーとして鳥居を造る。
本来の参道とは違うので『参道』と名乗ることができなかったため、『八幡宮近道』と掲げる。
八幡宮の参道の一つとして観光客増加。

・2013 年市の電線類地中化完成により、八幡宮裏山まですっきり見るような景観になる。**映えスポット**
オーバーツーリズムによる住民の不満増。
食べ歩きのお店などが増え、一日ないし半日商店街を楽しむ人が増えている。

・2016 年商店会で食べ歩きについてのアンケートを実施。
賛否よりどちらでもないという意見が８割。
対応として、ごみ箱を無くし、持って歩くのにちょっと可愛くオシャレな紙袋を配布してポイ捨てしない工夫をした。

紙袋にしたのは、食べ歩きの商品に多い串がビニール袋やレジ袋では穴を開けて道に落ちてしまうからだが、紙袋代がちょっと良いものを作ったためコストが割高になった。

コロナ禍で頓挫、現在再考中

（多言語化・高い施策費用が課題）

◎商店会会員･地域住民･観光客それぞれの立場を考えた施策が必要。

都心からもブラっと来やすい立地も魅力の一つであると考える。

現状は店舗が空いても、すぐに入れ替わり次の店舗が入るため、空き店舗の問題はない。

商店会で新規店舗の選定はせず出店を受け入れているため、多様な店舗があり、たった３００ｍでも観光客が飽きない理由かもしれない。

（ただし、どんな職種・店舗でも受け入れるわけではない）

会長のお話は「元々発展していたわけではない場所を今の他府県からも八幡様を目当てではなく、小町通り商店街を目的に来たという人が増える状態になった」とことであった。

現在の泉大津駅西側のすでに店舗ではなく一般住宅として改装までしている中央商店街は難しくとも、ポツポツ空き店舗が出てきている他の商店街や駅前通りに応用ができないだろうかと思いながらお聞きし、その後の現地視察に向かった。

―小町通り現地視察―

全委員で鶴岡八幡宮まで歩き、その後各々での視察となった。

私は、泉大津市の商店街に活かせる工夫はないか、どの様な店舗に人が集まっているのかという視点に立って、再度小町通り商店街を視察した。

店舗は様々で、最近のはやりの食べ物店やおしゃれで格安の洋服店から、異国感溢れるちょっと値の張る雑貨から洋服まで売っている店、動

物と触れ合えるカフェがあちこちにあることも目を引き、ペット用品を売っている店舗の多さにも驚いた。

また、空き店舗の内装を借りた人がそのまま使えるようにリノベーションし二区画に割って個人にも貸し出しているなどの工夫もあった。

鎌倉駅前　新店舗
抹茶ドリンク・スイーツ
目の前で引き立ての抹茶を使って作るドリンクが人気とか…
店内には茶筅などの他
鉄瓶・銀瓶など高価な茶道具も

元の店舗を二分割した貸店舗
この時は個人製作の子ども服店
年に２回２週間のみ借りるらしい
(作り溜めた３シーズン着回しできる洋服を販売)

猫カフェ・犬カフェ
かわいい生きものミュージアム
その他、手作りの動物ウェア店が多数
入り口も目を引く造りで、建物の２階
３階へ外階段から入れるところが多かった

雑多な食べ物屋さんが入る屋台村
その他にも通りに食べ歩きができる店舗が多数あり、しっかりした店構えの店舗でも少量のテイクアウトができるなど、街歩きが楽しめる

【鎌倉文華館 ― 鶴岡ミュージアム ― 】

鶴岡八幡宮境内にある常設美術館

行った時は八幡宮の秘蔵展を開催していた

併設のカフェはオープンデッキもあり、自然の中に在りながらおしゃれ

本市に取り入れられないかと思ったのは館内二箇所のまちの紹介映像である。どちらも音楽と画像が流れているもので、一つは歴史と見どころ行事など、もう一つは鶴岡の美しい四季となっていて、次は冬も来てみたいと思ったほどで、この仕掛けをシープラでできたら駅前しか立ち寄らない人、泉大津市に住んでいて市内の魅力に気づいていない人が市内に流れるのではないかと思った。

館内から見る八幡宮の借景庭園

２．鎌倉市の観光施策について

二日目は鎌倉市の議会会議室にて担当部課の職員から問題点などの説明を受けた。

鎌倉市は毎年市町村魅力度ランキングでベスト１０入りするほど有名で、遠足や修学旅行にも多く選ばれている歴史のある街であり、近年は新たな聖地としても注目を集めている。

しかし、立地の良さが災いし東京で宿泊、朝食も済ませた観光客がほとんどで、夕飯前には帰ってしまう。

＜問題点＞

・都内からも交通の便が良く、日帰りで半日ないし一日過ごす

⇒観光客数と市税収入がリンクしない

・狭いエリアに多くの観光資源と住居が密集している

・アニメの聖地として鎌倉高校前に人の流れが増

⇒ひどいマナー違反も多く、通行に危険と近隣住民とのトラブル

＜対策＞

市内のモザイク状の見どころや、日本遺産を巡るストーリーを認定。「いざ鎌倉」のもと八幡宮の東エリア・鎌倉北東部、覚園寺、明治電車、文学、明治時代からの別荘跡地(現在はカフェなどになっている)などを紹介するなども令和８年からの観光基本計画には宿泊税も導入する予定。

鎌倉市の予算における観光収入は市税の 1/2 程度でコロナ禍でも、市収入は左右されなかった。理由としては高所得者が多く、新たに移り住む人も土地や住価格が高いためその傾向はますます進んでいる。大きな家が多く、固定資産税収入が大きい。

今後も鎌倉だけでなく、近隣の藤沢や江ノ電などとも連携をして三浦半島を含めた、地域一帯で巡る施策を進めていくという。

鎌倉高校前の状況説明と対策に多くの時間を割いて頂いた、一か所に集中することの問題点とそこに係る費用が大きくなることの難しさを感じた。

最後に、職員の方に市役所から近い旧古賀邸の広い敷地に立つ洋館のカフェを見に連れて行っていただいた。広さのスケールの違いに圧倒された。この様な建築が市内各所に点在しているらしい。

所　感

鎌倉という誰でもが知っている街という印象だけでなく、それぞれの取り組みや施策を実際に目にし、体験し、お聞きする事で本市に取り入れられるのではないかと思えることがたくさん見つかりました。

オーバーツーリズムに悩まされるほどではないけれど、市内の知って欲しいと思う史跡や、穴師神社のご神体、小津の泊の由来と泉大津市の成り立ちなど、まず市民の方が行ってみたいと思うような仕掛けをどのようにすれば実行できるのか。商店街の賑わいは、どの地区に力を入れ、どのように残し、作っていくのか、課題はたくさんあると思いながら視察を終えました。

自治体連携・観光推進特別委員会行政視察報告書

令和　7年11月 4日

泉大津市議会議長　様

委員氏名　丸谷正八郎

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

1　日　　時　　令和7年10月30日（木）～10月31日（金）

2　出 張 先　　神奈川県鎌倉市

3　視察内容　　鎌倉市

10月30日（木）　・鎌倉商工会議所（小町商店会会長と面談）

・小町通り他

10月31日（金）　・鎌倉市役所、鎌倉市の観光施策について

4　所　　見　　次頁参照

（所見）

鎌倉市は、東京より南の神奈川県にあり海に面しています。中世鎌倉時代に政治の中心地として栄えた場所で、現在は数多くの禅寺と神社が点在する有名なリゾート地です。中でも最も名を馳せる歴史的建造物は、高徳院の大仏です。この青銅製の大仏は高さが約 13mもあり、15 世紀の大津波にも耐えました。また、相模湾の由比ヶ浜は、人気のサーフスポットです。

鎌倉市の観光施策の評価される点は、高い再訪率、首都圏に位置し、交通アクセスが良好であること、そして社寺、海岸、ハイキング、飲食店など、多様な年齢層が楽しめる観光資源が豊富にある。豊富な観光資源 伝統的な社寺から自然景観まで、幅広い魅力を持つ観光資源となっている。

課題としては、オーバーツーリズムである。具体的な影響は公共交通機関や施設の混雑、観光客によるポイ捨て、景観悪化、騒音、地域住民とのトラブルなどが挙げられる。根本的な問題として受忍限度を超えた負の影響と観光客の満足度低下が起こっている状況がある。また、鎌倉市の高齢化率は全国平均と比較しても高く、高齢化問題が観光施策の課題の一つとなっている。

防災については、災害リスクの可視化と対応が、観光地としての安全確保のために重要である。また、観光客と住民の共存・インフラの整備・地域間の観光資源の格差解消・観光業の季節変動への対応・観光業における人手不足の解消などがある。

本市の観光施策は、まだこれからであるが、観光客のニーズも近年変化が出てきている。観光地での建築物の拝観や買い物などから、その土地の風土に触れたり物づくり体験などが求められている。本市においても、様々な観点から観光について調査・研究を引き続き行う必要性を感じました。

自治体連携・観光推進対策特別委員会視察報告書

令和 7 年 11 月 13 日

泉大津市議会議長　様

委員氏名　　丸 山　直 土

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

1　日　　時　　令和7年10月30日（木）～10月31日（金）

2　出 張 先　　神奈川県鎌倉市

3　内　　容　　鎌倉市の観光施策について
10/30(木)　小町通り商店会会長　今　雅史様
午後～小町通り商店街 現地視察
10/31(金)　鎌倉市　観光課の職員様（座学）

4　概　　要　　次頁参照

5　所　　見　　次頁参照

【 概　要 】

鎌倉市は古都としての歴史的資源を有しながら、年間約一千六百万人の観光客を受け入れる全国有数の観光都市である。今回は、観光課職員より、観光客の受け入れ体制や住民生活との調和に向けた取組などについて説明を受けました。

鎌倉市は周囲を山と海に囲まれた自然豊かな都市であり、市街地と観光地が非常に近接しているのが特徴である。観光客の約九七％が日帰り客であり、土日を中心に短時間に人が集中するため、観光密度が非常に高くなる。観光エリアは北鎌倉から長谷、由比ヶ浜に至る範囲に広がり、鶴岡八幡宮や高徳院（鎌倉大仏）など著名な社寺が点在している。市内では住民の生活空間と観光動線が重なり合うことから、観光と生活の共存が重要な課題となっている。

説明では、特に近年話題となっている「鎌倉高校前踏切」（アニメ『スラムダンク』の舞台として有名）周辺の混雑問題が紹介された。同踏切付近では、観光客が路上で撮影を行うことにより、交通の妨げや安全上の問題が発生している。市では、警備員の配置や誘導路線の明示、注意喚起看板の設置などを実施している。また、地域住民との協議を重ね、マナー啓発や観光客との共存を目的としたルールづくりを進めている。これらの取組は、単なる規制ではなく、観光を「地域の文化として受け入れる」方向で行われていることが印象的であった。

鎌倉市では、観光課を中心に関係団体・事業者・住民が協働する仕組みを整えている。近年はデジタル技術を活用した混雑状況の可視化や、来訪者の分散誘導にも取り組んでおり、国の補助金を活用した社会実験も実施している。また、観光客の利便性向上とともに、地域経済への波及効果を高めるため、宿泊促進や地域特産品の販売支援も行っている。さらに、市民向けには観光による恩恵と課題の双方を理解してもらう啓発活動を進めており、行政と住民が一体となった観光施策の姿勢が感じられた。

【 所　見 】

第１日目は、小町通商店会の今会長より、これまでの様々な取組みを聞かせて頂き、ご自身も本商店街で長年おもちゃ屋を経営されており、食べ歩きマナーの向上のために、ごみを持って帰って頂けるよう、内面をコーティングした手提げ袋を作成したり、歴史・文化を活かした地域活性化、そして観光客と地元住民の調和を目指し、商店街の魅力を高める活動をされており、大変に勉強になりました。

第２日目は、鎌倉市の観光課の職員の方に様々な説明を受けました。近年、円安を背景としたインバウンド消費の増大がみられる中、小町通商店街の売り上げはかなり上がっていると思われましたが、観光課の方からの説明では、地元の方々の経営ではなく、他地域を本拠地とする経営者が多く、観光客の多い少ないで市の税収はほぼ変化がないとお聞きし、さらに日帰り客が多く、ホテル利用が少ないのも税収が伸びない原因だとのお話には予想外で、運営に苦労されていることを知る事ができました。

鎌倉市の取組は、観光地としての成功の裏側にある「過密」「マナー」「共存」といった課題に対し、現場に根ざした丁寧な対応を行っている点が特徴的でした。観光を単に経済活性の手段とするのではなく、「地域文化の継承」と「市民生活の質の維持」を両立させる姿勢は、今後の本市の観光施策にも多くの示唆を与えるものと考えます。

特に、観光客の行動管理や住民との協働体制づくり、デジタルを活用した分散化の仕組みは、泉大津市におけるイベント時の来場者対応などにも応用可能であると感じました。

今後、本市においても「人を呼び込み、まちを守る」観光政策のあり方を検討するうえで、鎌倉市の取組は極めて参考となるものでしたので、引き続き調査・研究を重ねて、この取組を行政の方々と共に力強く進めていく決意です。

自治体連携観光推進対策特別委員会視察報告書

令和７年１１月７日

泉大津市議会議長　様

委員氏名　森下　巌

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

１　日　　時　　令和７年１０月３０日（木）～１０月３１日（金）

２　出 張 先　　神奈川県　鎌倉市

３　視察内容　　神奈川県　鎌倉市商工会議所【１日目】
・鎌倉小町商店会について

神奈川県　鎌倉市役所【２日目】
・鎌倉市の観光施策について

4　所　　見　①

小町商店会会長の今様から話をお聞きした。鎌倉市は一大観光都市で連日多くの人でにぎわっており、単純に泉大津市との比較にはならないが、商店会の成り立ちからの経緯をお聞きすると様々な取り組みをされてきた中での今日があることがよく分かった。

小町商店会は八幡宮近くとはいえ正式な参道ではなく、元々地元市民向けの商店会だったが、1948年に商店会入り口に鳥居を設けて、八幡宮への近道とアピールしたことで、人の流れを向けさせたことがまず大きな出来事だった。その後も電柱の地中化による吹き抜ける感じの景観や、それほど広くない道ゆえ両側の商店を楽しみながら通り抜けられることも功を奏していると感じた。近年はオーバーツーリズムによるごみ問題などの弊害が言われるが、やはり人の多いにぎやかな方に人は足を向けるので、商売人にとっては人出があるということが何よりの宝であろう。

ごみ問題も創意工夫のある持ち帰り用のおもてなし袋を作成したり、観光客のサポートボランティアによる対応など市や県の補助金も活用して取り組まれて、アンケートで食べ歩き反対が10年前は71%だったものが、歓迎80%になるなど、単に拒否や禁止ではなく受け入れつつ受容して対応してきたことがこうした結果となっている。

会長さんのお店は、この後に小町商店会を歩いた時に拝見させてもらったが、小さなおもちゃ屋さんだったが、品ぞろえがすごくて、観光客対応に業態変更もしながら、商店会では5番目に古いとのことで、柔軟に時代に合わせて鋭意商売をされて来たんだと実感し、町や商店街の課題に合わせて柔軟に取り組んでこられた姿勢こそが一番の学びになった。

4　所　　見　②

2日目は市役所にて観光課の課長よりお話を伺う。まず驚いたのはオーバーツーリズムでよくニュースにもなる鎌倉でもまだコロナ禍前の水準に戻っていないこと。さらに驚いたのは観光客が増えても減っても市税収入は大きく変わらないとのこと。人が非常に多く感じるのは京都などの観光都市に比べて、観光客密度がずば抜けて高く、狭いエリアに人が集中しているからとのことだった。加えて近郊からの来訪者が多く、宿泊をしない日帰りが圧倒的に多いとのことだった。また、多くの出店者も東京、横浜の事業者のためとのことだった。

しかし、全国的に知名度が高く良好なイメージがあり、町の魅力度ランキングで7位と、歴史や文化、海や山の自然に囲まれていることから、昔から別荘地や文化人が集まる町として、住みたい、住んでみたいということから高所得層の市民が多く、地方交付税交付金を受け取る必要のない自治体であり、財政的には恵まれている。それはあらゆる世代が多様な目的をもって、何度もリピーターとしてくる人が多いということが、移住、定住促進、Uターンなど様々につながっているように感じた。

鶴岡八幡宮や鎌倉の大仏が著名ではあるが、鎌倉五山などの神社仏閣を単に紹介するだけではなく、歴史、文化のストーリーがある日本遺産として認定されており、その良さを守り発展、発信しているからこそここまで続いているんだと思う。

観光資源という点では遠く及ばないが、それほど有名ではないものでも価値のある物には光をあてていくことや、コロナ後はそれまでとは明らかに違う単に観光目的だけではなく、ここで何をするのかという価値を見出すために連泊する人や、様々な体験に重きをおいて訪れる人が増えており、そうした事は本市においても可能性があるのではないかと考えさせられた2日間になった。